

平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

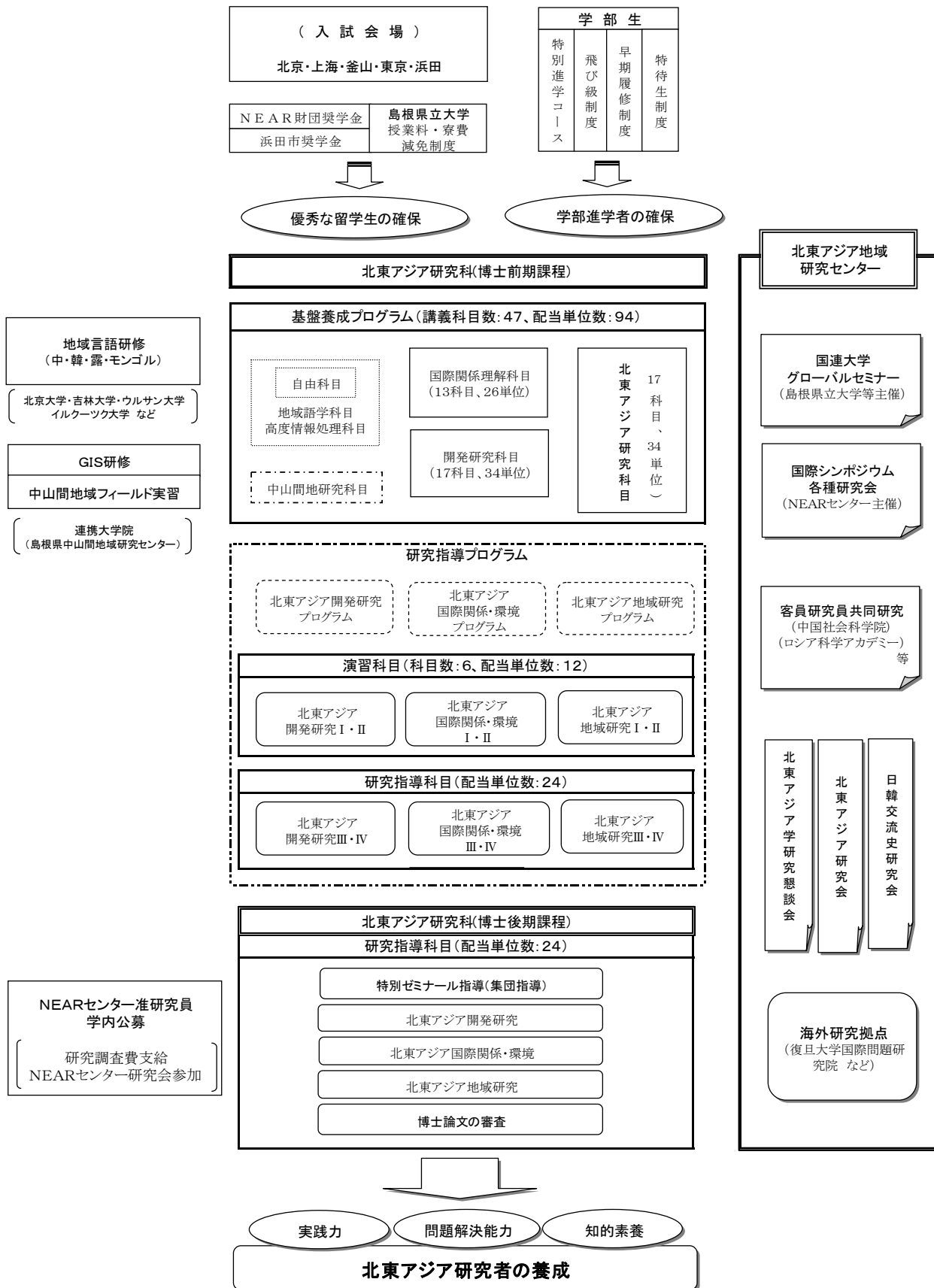
機 関 名	島根県立大学	整理番号	d011
1. 申請分野(系)	人 社 系		
2. 教育プログラムの名称	実践的北東アジア研究者の養成プログラム (北東アジア地域研究センターとの連携による)		
3. 関連研究分野(分科)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 地域研究、政治学、史学		
(細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (北東アジア、国際関係論、政治学、史学一般、経済政策)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 北東アジア研究科・北東アジア専攻[博士前期課程] 北東アジア研究科・北東アジア専攻[博士後期課程] (その他関連する研究科・専攻名)	研究科長(取組代表者)の氏名 宇野 重昭	
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。) 5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について) 平成15年4月に開設した北東アジア研究科では、北東アジア地域における人文・社会学的な視点からの教育研究活動の充実に努めている。また、国際的な人材育成・交流の観点から北東アジア地域を中心とする留学生を積極的に受け入れている。 一方、本学では大学院の開設に先立つ平成12年に、①北東アジア地域をキーとした知的交流拠点の形成、②地域振興等への貢献、③本学の研究・教育機能等の充実強化、を図ることを目的として北東アジア地域研究センター(North East Asian Research cennter 以下、「NEARセンター」という。)を開設し、国際シンポジウムの開催や、海外で活躍する著名な研究者を招聘して研究会を開催するなど、海外との研究交流について精力的に取り組み、大きな成果をあげている。 本プログラムは、このようなNEARセンターの活動や成果を踏まえ、教育研究活動のいっそう充実を図るため、特に北東アジア研究科博士後期程課とNEARセンターとの密接な連携を図り、実践的でかつ幅広い思考力と高い問題解決能力を併せ持つ人材を育成するシステムを確立しようとするものである。			

機 関 名	島根県立大学	整理番号	d011
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について) 北東アジア研究科は、北東アジア地域を対象とした地域研究・地域分析・地域言語・国際関係論等の基礎知識の上に、国際政治学等のケーススタディの成果を取り込みつつ、人文・社会科学を中心とする総合科学的立場から、世界的に広い視野を持って地域の諸課題の解決を図ることのできる人材の養成に努めてきた。 本研究科においては、〈前期課程〉は「少人数制による講義科目と複数演習履修による効果的指導体制」を基本理念に据え、講義形式を想定した『基礎養成プログラム』と演習・指導形式を想定した『研究指導プログラム』を系統的に配置して効果的に教育を行っている。〈後期課程〉は、主指導教員による「特別研究指導」と複数教員による「特別ゼミナール指導」(集団指導)との二本立ての指導体制を特色としている。 今後の課題は、本学の立地条件、規模の制約から、とにかく研究の幅が狭くなりがちな院生の教育・研究活動を支援するため、NEARセンターの改革と併せ、NEARセンターが進める研究活動に院生が主体的に参加できる体制をつくりあげることにあると考えている。			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画 (5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について) 本プログラムは、本学のこれまでの教育プログラムを活かしつつ発展させ、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成」という要請に応えようとするものである。 〈前期課程〉においては、NEARセンターの研究会活動への参加を通じ研究者としての基本的能力を身につけさせる。 〈後期課程〉においては、院生を本学NEARセンター准研究員(RA:Research Assistant)に位置づけ、NEARセンターが主催する各種研究活動に主体的に参加して研究発表することができるようにし、専門分野の研究を深め、さらに専門外の研究者や市民研究者との意見交換を通じ、研究者としての幅広い視野を持たせる考えである。また、NEARセンターと共同研究を進める復旦大学国際問題研究院の協力により、随時、院生が滞在し研究活動・研究指導を受ける体制を整え、国際的通用力のある研究者を目指す。 さらに、博士課程を修了し、博士論文の公刊を控えている院生をTA(Teaching Assistant)として学生・院生の指導にあたらせ、教育者として訓練の機会も提供したい。			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

北東アジア研究者養成のためのプログラム

島 根 県 立 大 学



機 関 名	島根県立大学	整理番号	d011
＜審査結果の概要及び採択理由＞ 「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。 本事業の趣旨に照らし、 ①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか ②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。 なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。 [特に優れた点、改善を要する点等] ・地方の小規模大学として地理的要因を生かした大学全体としての取組の姿勢は高く評価でき、今後の地方の小規模大学院の教育モデルとなりうる。 ・国単位を超えた地域を対象とする研究・教育というコンセプトは納得でき、学生の指導においても競争を促進するなど工夫が見られる。市民研究員制度も地方社会への貢献ならびに大学院生への教育という点で興味深い。 ・教育プログラムの実現に向けて、養成する人材像の一層の明確化を図り、それに沿ったカリキュラムや教育方法の工夫が望まれる。			